日中友好新聞

府連通信
大会特集号

2017年６月号
日本中国友好協会
大阪府連合会
〒530-0012
大阪市北区
芝田2-3-19
東洋ビル本館207
TEL06-6372-8131
FAX06-6372-8132
郵便振替口座
00970-5-8978
E-mail: info@jcfaosaka.org
http://jcfaosaka.org/

六六回大会
三年連続会員が増加

第六六回大会は東京・台東区に２６０名が集い、三年連続の会員・準会員の増勢のなかで開催されました。この一年の間に１０００名近くの新たな会員・準会員を迎え、さらに西宮、荒尾・玉名、宇部の三支部が新たに結成されました。

中国大使館の汪婉参事官が「中日関係は改善しつつあり、相互理解も深まっています。協会の全国各地での地道な友好交流活動に敬意を表します」と来賓あいさつされました。

汪婉参事官の来賓あいさつ

大阪府連から本部役員二名と代議員七名が参加し「機関紙コンクール」では「府連通信」「大阪西支部ニュース」が佳作に選ばれ表彰されました。夜の祝賀会では平松代議員が三〇年表彰を受けました。

六月号は大会参加者の声を特集しました。

大会に参加して

本部副会長・府連会長　渡辺　武

１．今回の大会は会長挨拶・来賓挨拶・理事長報告などいずれもわが国の現状に対する歴史的危機感の強調が印象的でした。秘密保護法・戦争法・共謀罪法・マスメディア右傾化など「満州事変」（１９３１年）前夜に似てきたとの指摘もありました。

２．中国の経済発展と国際的地位の上昇がめざましい。日中両国民の相互理解と友好を深め、両国の平和的で正常な関係を強めることが、アジアと世界の平和と繁栄にますます不可欠であり、日中不再戦の決意を踏まえた日中友好運動が果たす役割も一層大きくなることを再確認させられました。

３．大会代議員の平均年齢が六八歳余。会員高齢化の問題は、過去一年間の物故者や退会者の多さからも痛感されますが、それでも青年を含む新入会員が約１０００人、増勢で大会を迎えたのはすごいことです。大阪も少しは貢献できた事を喜ばずにはいられませんでした。活動が活発化すれば仲間はもっと増える、との教訓とともに。

府連理事長　松尾　豊

今年の大会は、久しぶりに二日目が七つの分科会開催となり、テーマごとの議論が活発にかわされました。私は、第六分科会「中国百科検定」で座長を務めました。「やっていることは素晴らしいのに広がりがもう一つ。工夫を凝らし通年の取組にして、次回はもっと受験者を増やそう」との意思統一がされました。

発言や報告に共通しているのは、全国各地で幅広い分野で日中友好活動が展開され、そこに参加した人たちに働きかけ、新たに加入するということです。

この数年は、大会運営委員として携わりましたが、各地からの発言も事前に要請した発言要旨が提出され、半数以上が印刷・配布され改善されています。

全国大会参加は今回で二五回目、初参加は１９７８年の第二七回大会、二七歳の時でした。

全体からみれば若い方ですが年齢を重ねたなあと嘆息。もっと青年、女性の入会と参加を増やさねばと思いました。

六三回大阪府連大会

七月二日(日)午後一時半
大阪グリーン会館
参加予定の方はご連絡ください

東大阪支部総会　五原則の活動で支部運営

五月二七日、布施市内で六回目の支部総会を十一名の参加で開きました。支部活動を見た時に組織活動の五原則「①役員会を毎月一回開く、②各団体と共催しての戦争展や中秋明月会など多彩な行事を開催する、③会員、準会員、研究中国を増やし組織を大きくする、④配布、集金を確実に行う、⑤機関誌・ニュースの発行」の活動を行っていることに気づきました。

中国に対するイメージが悪く宣伝されていますが、隣国を侵略した歴史を忘れず、中国を正しく理解するため、中国の文化にふれ、中国との友好を強化していくため、みなさんとご一緒に学んでいきたいと思います。

運動の担い手の若返りや、「支部ニュース」の定期発行が急務です。

（栗山俊子）

緒方講演会反核のうねりから見る世界の動き

五月十七日エルおおさかで大阪平和国際友好団体共同講演会『世界はどう動いているか・・・反核のうねりから見る』が開催されました。開演三〇分前には、会場は熱心な聴衆でいっぱい。中国定例研究会のメンバーや中国語教室の生徒さん、太極拳教室の生徒さんの顔も見えました。

講師の緒方靖夫さん（日本共産党幹部会副委員長　国際委員会責任者）は用意された資料に基づいて分かりやすく講演されました。話題はどうしても連日ミサイル実験をする北朝鮮問題に。アメリカを先頭とする頑迷な核保有国の自分たちのことは棚に上げて「戦略的安定」を欠く、などという都合のいい態度。中国やベトナムの北朝鮮に対する取り組みなど実際にご自分が対談された内容などお話しされました。

最後に質疑では「宝塚九条の会」の会員で中国定例研究会のメンバーでもある方が質問されていました。

「マスコミが連日、北朝鮮の危機を煽り立てる。ミサイル防衛システムが必要やで。イージス艦ももっと増やさないかん。喜ぶのは三菱重工、川崎重工、日本電気、ＩＨＩ（石川島播磨重工）、新明和工業など兵器産業。地下鉄止めんと、死の商人たちの暴走を止めんと・・・。」会場からはこんな声が聞こえました。

（石井勉）

日中大会参加代議員の感想

府連副会長　山本恒人

世界の情勢は転換点にある。トランプの自国主義はアメリカの覇権の衰退の象徴。戦争ではなく対話、地球環境の保全、自由貿易と協調による世界経済の発展を唱える中国の姿。安倍政権の暴走と日本の平和憲法の危機は世界の大問題となっている。大会報告は冒頭から的を射た分析。大阪も長谷川テル反戦放送に光をあて、市民団体との連携で南京大虐殺の歴史を府民に正しく伝える運動、がんばってきている。しかし、神奈川が村瀬守保写真展に３０００人など、不再戦・平和の活動を日中友好協会の強化と結びつけたスケールのちがった経験を聴くと身が引き締まる思い。支部を柱とする皆さんの力はまだ花開いているとは言えない。　城北・堺の支部創設、再スタートは大阪府連を変える。西・東大阪の日常活動は新しい動きの手本。世界の情勢の転換点に新たなレベルの日中友好運動を、胸に誓う。

２日目の大会会場

大使館の汪婉さんのご挨拶では、わが日中友好協会の存在をどれほど頼もしく思ってくれているか、見事に語っていただいた。

東大阪支部　松原弘太郎（初）

満七八歳を過ぎて大会に初参加です。特色ある支部が各地にあるのがよくわかりました。私は不再戦と平和運動の分科会へ参加し、日中不再戦と反戦について発言、まず「戦争は一度始めたら止まらない＝止められない」と述べ、締めくくりは作家の五味川純平「戦争と人間」の小説に出てくる「昭和二〇年八月までの日本の国と日本人は中国に対し、国家的な規模で侵略し、国民的な規模で迫害し、民族的な規模で盗賊化していた」と記している事を紹介しました。

大阪の代議員席

大阪西支部　青田敏広（初）

一昨年の春、西支部主催の餃子教室に誘われたのがきっかけで入会、太極拳教室に参加しています。毎週の教室での練習が楽しく、待ち遠しい日々です。こんなことだったらもっと若い時に巡り合っていたらと後悔しています。

堺支部（準）　浅田勝美（初）

全国大会の発言内容は実に多彩で豊か。中国との交流は、人生を豊かにしてくれるものであると改めて実感。１００歳になる高齢役員がいる、「日本会議」や白寿を迎えた中曽根元総理に負けない元気で生き生きとした高齢の方々が沢山参加。

注目したのは「日中交流史」。特に和歌山県連の毎年留学生を迎えて「日中交流史を巡る旅」・・・中国で真言宗を広めた「空海を訪ねる旅」「醤油を訪ねる旅」「お茶を訪ねる旅」「金山寺みそを訪ねる旅」等。千葉の「日中交流史」の発言内容からすると、日本国民の多数が日中友好協会の会員になる展望がある。

「日本と中国の関係は戦後七〇年のアメリカとは違い、奈良時代からの１５００年以上の長い交流がある。文字のない遅れた日本が中国から文字を教えられ、その後、日本の文明は発達。平仮名やカタカナが生まれた。」

「日中交流史」やほとんどの若くしくも、今回の大会が、私の人生と同年齢、歴史的運動を築いてこられた協会の貴重な大会に初めて参加できて大変光栄です。全国の代議員のみなさんの発言には、いろいろと勉強させていただきました。

大阪西支部　松原弥寿夫

分科会で「大阪府連の活動は二五ヶ月連続で会員・準会員の増加です。きりえや太極拳も高齢化を迎え若返りの取り組みは非常に重要です。順調に見える東京や全国各支部も同じ悩みを抱えていると発言がありました。太極拳教室も若い人を引き付ける努力が必要だと感じました。中国語教室は受講生の減少を克服するため、中国語検定会場での宣伝配布など、新しい取り組みも始めて、昨年と比べて底を打った感触がしています。」と発言しました。

大阪西支部　平松悦雄

一〇年前・大阪で全国大会が開催され初参加、二日目に二〇年表彰を代表して受けました。今回は祝賀会で三〇年会員の六人を代表して表彰を受けました。二度代表して受けた多年表彰、次は五〇年をめざします。

平松さん３０年表彰

者が学んでいない「近現代史」の学習会。南京事件など日本が中国・アジアを侵略した歴史的事実、撫順の奇跡、中国人や朝鮮人連行などを学ぶ場の提供。そして、日中平和友好の多彩な取り組みで未来を展望することが明確になった大会でした。

組織活動の分科会で偶然両隣に親しくしている方々が、右には愛知、左には千葉支部のお二人、ともに素晴らしい組織活動を報告されていました。大阪府連や大阪西支部の仲間のおかげで恥ずかしくない報告ができました。全体会・分科会で教訓的な話を聞くことができ、未来を得る実りのある大会でした。

大阪西支部　澤野井公夫

大会は会員減を乗り越え増勢で迎えましたが、亡くなった方への黙祷が、かつてなく多く四〇名を超え、高齢化を実感しました。

各地の戦争展や村瀬写真展の取り組み、太極拳やきりえの文化活動、中国百科検定などの発言があり、組織活動五原則の活動が紹介されました。

大阪７名の代議員

役員選考委員会に参加しましたが、新役員の平均年齢が六八才と非常に高く、男女比も女性一〇％と少なく、大阪府連も同じ傾向なので大きな課題として、対策の必要を感じました。